

獣医解剖学用語（第6版）の刊行によせて

NOMINA ANATOMIA VETERINARIA (NAV)は、初版（1968年）、第2版（1973年）、第3版（1983年）、第4版（1994年）、第5版（2005年）、そして第6版（2017年）が発行されてきました。一方、我が国では、すでに独自の「家畜解剖学用語」（1966年）が発刊されていましたが、NAV初版を受けて1978年に用語集初版を、1981年にその改訂・再版、1987年に第3版が発行されました。日本獣医解剖学会／獣医解剖分科会ホームページに掲載されている獣医解剖学用語集は、この第3版を指しています。今回、2017年に発刊されていたものの、作業の遅れていたNAV第6版の和訳ならびにホームページへの掲載がやっと実現しました。用語集第3版からなんと34年の年月を経ての用語集第6版の発刊は、ひとえに学会の怠慢が招いたことであり、学会を代表して謝罪せねばなりません。

さて、第4、5版を飛び越えての用語集第6版にはどの程度修正・追加が見られるか、誰もが気になる点でありましょう。今回の用語集第6版は冊子体とはせず、エクセルpdf版として公表し、今後の日本獣医解剖学会としての修正・追加が容易となるようにしました。既報第3版との相違点は赤字で示しているとともに、学会独自の考えを追加した項目を緑のハイライトで表現しています。さらに、第3版までは記載がなかったNAV編纂の歴史を追加しました。残念なことに、発行所を介して編纂したものではないため、索引ならびにISBNは掲載されていません。

主な変更点を列記しますと、まず全体的な点について、1)可能な限り解剖学、組織学、発生学用語の統一がなされています。2)ウサギ（アナウサギ：*Oryctolagus cuniculus*）の用語が追加されました。3)発生学ならびに霊長類関連の用語の多くが削除されました。4)通し番号だった脚注番号が系統ごとに付与されました。5)動物種差にabsentが追加されました。また、一般用語について、82語が削除、100語が追加され、382語となっています。骨学総論では、*Cartilago physialis*が追加されたことで従来の*Cartilago epiphysialis*の概念が変更されるなど、日本語を再検討すべき点が認められました。筋学では総指伸筋・副頭、外側指伸筋・副頭など、授業の際に注意すべき変更点がありました。消化管系では*Organum juxtaorale*, *Cornu cavilatis dentis*の追加、*Linea anorectalis*

が *Junctio anorectalis* に用語変更されました。呼吸器系では *Fenestrae mediastini* が追加されました。尿生殖器系では腎盤（腎杯）の考え方が変更されました。脈管系では、とくにリンパ系で大きな変更点が示されています。ウマの蹄についてはかなりの変更点が示され、教育研究の具体を見直す必要が出てきています。その他、詳細については用語集本文を閲覧していただきますが、系統それぞれに多数の変更点がみられています。

我々は、日本獣医解剖学用語を我が国の獣医学が使用すべき正しい用語であると教えられ・教えてきました。ここで NAV 第 6 版を和訳することで明らかとなった用語変更、定義変更、新用語導入は、必然的に教育、国家試験、論文作成等に少なからず影響を与えることとなります。今後も、日本獣医解剖学会／獣医解剖分科会は相当の覚悟と責任をもって本誌編纂を続けなければなりません。

2022 年 5 月

日本獣医解剖学会／獣医解剖分科会
会長 昆 泰寛（北海道大学）

NOMINA ANATOMICA VETERINARIA の歴史

- 1895年まで、人体や獣医の解剖学の命名法には一般的な合意がなく、多くの構造物は国によって異なる名前を持ち、最初の記述をしたとされる人物名が付けられたり、同じ器官でも異なる人物名が付けられていることもあった。
- 解剖学用語を統一する最初の試みは、1895年に Anatomische Gesellschaft が採用した Basel Nomina Anatomica (B.N.A.)であった。しかし、方向を示す用語が人体の立位に基づいていたため、家畜には適用できなかった。同年、第6回国際獣医学会議(ベルン)において、獣医解剖学的命名法に関する委員会(ICVAN)が設立され、1899年の第7回国際獣医学会議(バーデン・バーデン)でその命名法が採用された。
- 1923年、アメリカ獣医師会は、B.N.A.に基づいて、S.Sisson が委員長を務める委員会が作成した Nomina Anatomica Veterinaria を発行した。
- 1950年、獣医解剖学の命名法を準備することを主な目的として、国際獣医解剖学者協会 (IAVA)を設立することを決定した。
- 1957年、第1回 IAVA (フライブルク)が開催された。(我が国の参加者はなし)
- 1961年、IAVA は World Association of Veterinary Anatomists (WAVA) (ウィーン)と改称され、ICVAN で用語集全体の基礎となる Termini generales, Partes corporis, および Term of direction が議論され、採択された。
- 1963年、ICVAN (ハノーバー) の会議では、命名法の大部分が完成し、WAVA の総会で採択され、後に Nomina Anatomica Veterinaria (NAV) Pars Prima として複製・配布された。
- 1965年、ICVAN および WAVA (ギーセン) では、命名法の追加章が完成し採択され、後に NAV Pars Secunda として配布された。(我が国から M. Yasuda がメンバーとして参加)。
- 1967年、ICVAN および WAVA (アルフォート) にて、NAV の初版に関する最終審議が行われた。
- 1968年10月、NAV の初版が発行された。
- 1971年8月、WAVA (メキシコ) の総会では、ICVAN で採用された変更点を加え、索引を付けた第2版の出版が承認、1973年に完成した。(我が国から S. Mikami がメンバーとして参加)。
- 1973年9月、ICVAN と国際(ヒト)解剖学命名法委員会 (IANC) の合同会議(マンチェスター)が開催され、ヒトと獣医の解剖学、組織学、発生学の命名法を統合する可能性が検討された。
- 1978年9月、ICVAN (セントビンセント) で、NAV の約40項目の細かい修正が採択され、1983年に第3版が出版された。
- 1980年、ICVAN と WAVA の会議(メキシコシティ)で、獣医解剖学的命名法に関する

国際委員会 (ICVGAN)、獣医組織学的命名法に関する国際委員会 (ICVHN)、獣医発生学的命名法に関する国際委員会 (ICVEN)、および鳥類解剖学的命名法に関する国際委員会 (ICAAAN) が設立された。

- NAV 第 4 版(1994 年)は、ICVGAN の以下のメンバーによって作成された。(我が国から T. Fujioka、K. Mochizuki がメンバーとして参加)。第 4 版は、書籍として印刷された最後の NAV である。
- 2005 年、NAV の第 5 版は、より良い方法で安価に世界中に配布し、NAV の利用を促進するために、WAVA のウェブサイトが発行された。第 5 版は以下の方々によって作成された。(我が国から Y. Hashimoto がメンバーとして参加)。
- NAV 第 5 版の改訂版が 2012 年春に発行されたが、いくつかの誤植を修正しただけで、内容の変更や新しい用語の追加はなかった。
- 2017 年、NAV 第 6 版が発行された。

NAV を利用する方へ

- a. 方向を示す用語については、以下のルールが採用された。cranialis と caudalis は、首と体幹、手根部と足根部の近辺の四肢に適用される。手足には dorsalis と palmaris、足には dorsalis と plantaris が使われる。頭部では rostralis、caudalis、dorsalis、ventralis が好まれ、眼球、眼瞼、口唇、内耳などの少数の部位では anterior、posterior、superior、inferior が使われる。medialis と lateralis は全身に使われるが、ウマ以外では、四肢の機能軸を指す axialis と abaxialis が使われる。
- b. 古典的なラテン語と異なる場合は、言語学的に正しい綴りを [] 内に示した。
- c. 括弧 [] 内の用語は同義語である。
- d. Systema lymphaticum (リンパ系) では、命名されたリンパ節の多くが出現率の異なるものである。
- e. 編集で考慮した動物種は、「各体部の体位を示す用語」の注釈 1 に記載されている。「Ungulata(有蹄類)」には、*Sus scrofa domestica* (ブタ)、*Bos taurus* (ウシ)、*Ovis aries* (ヒツジ)、*Capra hircus* (ヤギ)、*Equus caballus* (ウマ) のみが含まれる。「Artiodactyla(偶蹄類)」は、*Sus scrofa domestica* (ブタ) と Ruminantia (反芻類) (*Bos taurus* (ウシ)、*Ovis aries* (ヒツジ)、*Capra hircus* (ヤギ)) を意味する。用語の後に種名が記載されている場合は、その構造がその種にしか存在しないことを示す。特定の種に存在しない構造は (abs.) で示される (第 5 版から)。
- f. 血管と末梢神経は、動物種差のために別々のリストを作成した。別々のリストの最後には、すべての種に共通する命名法が「Termini communes (共通用語)」という見出しで再開されている。